

I. イントロダクション

早稲田大学商学部教授 坂野 友昭

最初に、本日の趣旨説明をさせていただきます。昨日「自己再生組織を求めて」という国際カンファレンスを開催いたしました。これは、NOFIA (New Organizational Forms for the Information Age) と呼ばれる国際研究プロジェクトの成果を発表したものでした。NOFIA プロジェクトは、21世紀におけるグローバル企業の新しい支配的な組織形態を予測することを目的とし、早稲田大学のチームを含めて1995年に設立されました。昨日のカンファレンスは、内容的にも実りの多いものでしたが、純粹にアカデミックなものとして行われましたので、通訳もつけませんでした。せっかく、世界各国からトップクラスの研究者をお呼びしたので、本日は、専門家だけでなく、一般の人にも対象に、パブリック・カンファレンスというかたちで、「インターネット時代におけるE-組織」というタイトルで、その成果をお話していただくことにしました。そしてさらに、インターネット・コンサルティング会社のエクイティ・リサーチから大和田さん、そして、日本のE-ビジネスの第一人者である文教大学の根来先生にもおいで頂きまして、日本におけるE-ビジネス、E-組織のあり方についてお話をしていただきます。さきほどの土田先生のお話でもありましたように、インターネット時代を迎えて、従来の組織とビジネスの形態が行き詰まっているということでは、コンセンサスを得ているのではないかと思います。しかし、その従来の組織に取って代わるものがどういうものであるかについては、まだ解を得ておりません。本日はその解を導く一つの足がかりでも得られればと思っております。